

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400900
法人名	有限会社 Up well
事業所名	グループホーム たくひの里
所在地 (電話番号)	島根県出雲市大津町3645 (電話) 0853-20-1770

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年3月20日

【情報提供票より】(21年 2月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	9.2 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(2月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島根県立中央病院、海星病院、まつだ歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にある小高い丘の上にホームはあり、山間の木々や畑など、身近に四季を感じることのできる環境にかまれている。木造瓦葺き二階建ての外観で、内部は壁や床、柱や天井の張りといった各所に木材を多く用いており、落ち着いてゆったりとした生活を送ることができるといった印象を受ける。また、窓は二重ガラスであり、設置者の利用者に心地良い生活を提供したいという思いが伝わってくる。共有スペースでは、利用者がそれぞれ少人数で、自分たちがやりたいことや望むことを無理なく行っており、自由で穏やかな時間が感じられた。また今年度より運営推進会議に利用者も交代で積極的に参加し、意見や要望を出してもらうなど、利用者を第一に考え支援がなされていることが確認できた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善を求められた「馴染みながらのサービス利用」と「思いや意向の把握」の項目については、この評価を受け止め、利用者の送ってきた生活を把握しておくことの重要性を理解し、自宅へ家庭訪問するなどしての情報収集を通し改善に向けた取り組みがなされていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。前回の外部評価で指摘があった事項はもとより、それ以外の事項に関しても、自己評価及び外部評価を通して、より一層の質の向上を求め積極的に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員会には、利用者家族、ボランティア、民生児童委員、住民代表等をメンバーとし、2ヶ月に1回、開催されており、今年度からは利用者が2, 3名ずつ交代で参加している。会議ではホームの現状や評価の報告がなされ、これに対し、協議、検討を行い、その内容をホームの運営やサービス改善に活かす取り組みがなされている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情相談に関しては窓口は明示され、外部委員も委嘱されている。面会時や家族会の折に意見や要望を聞き、出された意見や要望については、必要に応じてミーティングで話し合い、業務に反映するよう取り組んでいる。報告に関しては、面会時に提供記録等に目を通してもらう働きかけがなされ、状態急変時には都度電話にて報告はしているが、個々の利用者に関して、家族等へ文書等による報告がなされておらず、今後に向けて積極的な取り組みを期待したい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム便りからも、地域のお祭りへの参加や、様々なボランティアの来訪による交流が多くあることが窺える。特に地域の子ども会、小学校の折り紙クラブ、近隣の保育園との交流も盛んであり利用者にも喜ばれている。また小学生のボランティアによる窓拭きも行われており、より地域に密着したホーム作りに向けて積極的な取り組みがなされている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「大津の里の皆様といきいきとした交流…」といった内容で、誰が見ても分かり易く、地域密着に視点を置いて、地域との深い関わりを目指すといったホーム独自の理念が定められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議等の機会を通して、上記項目の理念を基に、「笑顔の介護」や、どんな人もどんな事も受け入れる心を忘れないよといったケアが日々の支援の中に生かされるよう取り組みがなされている。職員も時折、掲示されている理念を読み、ケアに当たっていることが、ヒアリングからも確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会が主催するお茶会や行事に参加する利用者もあり、近くの神社の祭りには全員が参加し、地域の方々と交流している。また、地元のパティシエのケーキ作りや、週1回のボランティアグループの来訪もあり、地元の子供たちとの交流も盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。前回の外部評価で指摘があった事項はもとより、それ以外の事項に関しても、自己評価及び外部評価を通して、より一層の質の向上を求め積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催しており、会議では報告、意見交換を行い、出された意見、要望等をもとに改善に繋げ、をホームの質の向上を目指す機会としている。また今年度より家族加え利用者が2、3名交代で運営推進会議に参加している。		

島根県 グループホームたくひの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は生活保護者、知的障害者の利用があることから、市の担当部署に自ら足を運び、情報提供と報告を行うなど、蜜に連携を取ることでホームの質の向上を目指し取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には日々の様子や活動を写真に撮り、個々のアルバムを作り目を通してもらっている。必要時には電話連絡も行っている。ホーム便りは毎月発行し家族に送付はしているものの、利用者個々についての家族等への報告がなされていない。	○	家族等もホームのスタッフの一員として捉え、利用者、家族等、職員全員でホームを創るという視点を持ち、家族間の情報交換の場を設けるなどのより積極的な取り組みと、ホーム便りの一部で利用者個々の日々の生活の様子を伝えるなどといったことにより、家族等とのより一層の連携の強化が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームと行政の窓口は明示・説明され、外部委員も委嘱されており、ホームに意見箱も設置している。面会時や家族会の折などで話す時間をできる限り多く設け、意見や要望を聞くようにしており、出された意見や要望については、必要に応じてミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係の中でケアが提供されることの重要性を十分に理解している。何よりも職員の交代が少なく、顔なじみの職員でケア提供がなされていることは評価できる点である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受験資格がある職員には、資格の取得を目標とする研修に参加させ、また外部研修等に関しては研修計画を立て、順次参加しており、復命により全職員での共有化も図られているなど、職員のスキルアップに向けた取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、情報交換等行いサービスの質の向上を目指している。また実践者研修実習を通して他のグループホームとの交換実習も行うなど、お互いの交流を通じて、ホームの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や、体験利用、職員の家庭訪問などを行うことにより、馴染みの関係をつくった上でサービスの開始できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯物干し、畑仕事や掃除といった日常生活々動を利用者と一緒に行うなど、共に支え合い、過ごしている支援がなされており、利用者からも教えてもらいながら、利用者と職員が共に支えあう関係作りに留意された支援がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人との会話を大切にし、思いや望みを聴き、意向等を把握しそれに添うように努めている。本人の意向把握が困難な場合には、家族から話を聞いたり、日々の生活の中での言動を観察することにより意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的全職員でアセスメントを行い、協議・検討を重ね、課題の把握を行い、介護計画に反映し共有化を図るような取り組みが行われており、毎月のモニタリングに際しては、本人や家族等の思いや意向も反映させ、利用者の担当職員がプランを見直し、一人ひとりに適切なケアが出来、共有化するよう取り組みがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しが行われ、一人ひとりに合った計画の策定がなされている。利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度見直し作成がなされ、すぐに対応できるように取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況、要望に応じて通院や買い物等、柔軟に支援している。ホームの「何事に対してもノーと言わない…」という対応方針からもそのことを窺い知ることができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入居前の主治医をそのままかかりつけ医とし支援している。受診に関しても家族の対応ができない場合は、ホームで対処し、結果の報告も行っている。主治医を変更しなければならない場合は、本人、家族と十分に協議がなされ、その意向に沿い決定されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師は配置されてはいないものの、重度化や終末期にケアについては、ホームとして出来ること出来ないことをきちんと家族に伝え、主治医とも協議し、医療機関の協力を得ながら、利用者が安心して終末期を迎え、過ごせるよう支援・取り組みがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	衣服の乱れや汚れがあればそっとカバーするような対応がなされており、排泄介助の際もプライバシーが守られ、居室に入る時は必ずノックや声掛けがなされている。また、本人の「現実」を否定しないよう、全職員が意識統一を図って対応しており、加えて、個人情報に関しては十分に配慮し取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームで定めた食事やティータイム、アクティビティの活動等にも、利用者一人ひとりのペースや状況に合わせた支援がなされており、昼食後も、入浴したり、居室で休んだり、繕い物をしたり、テレビを見たりと、夫々の自由な日々の暮らしが見て窺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調査当日は2ユニット一緒のバイキングの日であり、外注のおかずがテーブルに並び、利用者と職員夫々が、お皿に自由に取って食事を楽しむ風景があった。普段はご飯や汁の盛り付けや、食材の下準備やおやつ作りなどを状況に応じて行っている。利用者が献立書きをしてティータイム時に読み上げていただくなど、食事を楽		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望時や状況に合わせて入浴できる体制が取られている。また、ゆず湯や菖蒲湯などといった季節を感じることで入浴等で入浴を楽しむことに対する支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に応じて得意なことや、出来ることを活かす場を作り、ホーム内での役割を果たし、生活に楽しみと張り合いが持てるよう支援を行っている。また、毎月いくつかの行事を計画し、季節に応じた外出支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向や希望を踏まえ、近所への散歩や買い物、理美容院の利用、加えて地域行事等への外出支援などが実施されており、外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に施錠されることはなく、利用者、家族とも自由に入出りできる。夜間については防犯上の理由により施錠されているが、家族等の来訪時対応は行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防署の協力を得て、自衛消防訓練を行っている。また運営推進会議の委員の方にも声かけをし訓練の参加をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、体重等のチェック、好き嫌いや咀嚼能力の確認をして、利用者それぞれに合わせた柔軟な支援がなされている。水分もこまめに摂取してもらえるように配慮しており、摂取状況の把握もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材をふんだんに用いた古民家調の共有空間は、様々な利用が可能であり、吹き抜けの共用スペースは圧迫感のない居心地の良い空間となっている。壁面には目を楽しませる季節の飾りつけ等があり、ベランダにもくつろげるウッドデッキが設置されおり、各所に季節の花も置かれていて季節感も感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム設置の家具が設置されているが、利用者の家から使い慣れたテーブルや椅子、テレビやベッド、カーテンなどの持ち込みがあり、家庭的な雰囲気のある利用者個々の心地よい環境作りがなされている。		